# くろつち便り

**今月の内容**

第79回原爆祈念集会(8/9)／かごしま九条の会講演会(7/27)／多胡吉郎講演ー川端康成と特攻(8/3)／ストップ川内原発 青木幸雄講演(8/11)／野草折々78(ﾊﾅｼｮｳﾌﾞ)／Series学校現場㉝／ごてれつ独言㊴／**次回念曜集会は9/5日/17:30～**

↑会報QRｺｰﾄﾞ

## 第79回 広島・長崎原爆犠牲者祈念集会

8月9日、戦後80周年の今年は川井田さん指導の下、

命の歌「折り鶴」から始まり、会場が一気に和らいだところで会が始まった。

事務局長　本地博さん

節目の年です。世界の被爆者と連帯し核も戦争もない世界を希求していきましょう。

本地さんは天気を心配しながら準備を進めてきました。

九条の会　代表
松下徳二さん

あの日の長崎、ヒロシマの地獄・惨劇が繰り返されることのない世界、戦争のない地球を築き譲り渡したい。

上山四朗さんが無理を押して参加してくださいました。

原水禁と原水協、被団協が共同声明を出したという。この運動を発展させるために非常にいい傾向だと思っております。

中馬美樹郎さん

対話は異なる意見や価値観を持つ人々が分かり合うための重要な手段です。武力で平和は守れません。

米永敦子さん

市民活動の一つとして、戦争はいけないんだと歴史を直視しながら平和を守っていかなければならないという活動をしなければなりません

上薗紀男さん

この集会、歌声がはじめにあって大変よかったですが、苦言を言うと若い人たちが来ない。例えば情宣とか何か方法を考えないといけないと思う。

肝属支部副支部長 上山修さん

90年、百年と、戦後をずっと繋いでいくのは私達の役目だと思っています。人を殺す道具をどんどん増やしているこの国にNoを突き付ける必要がある

まだまだ発言者が続いたが後は割愛します。（次頁へ続く）

## 学校現場から シリーズ その32

## 臨時的任用教員…パート③

国見小　関下俊郎

プール掃除があった。デッキブラシでひたすら汚れを落とす。子どもたちと一緒に頑張ってはみたもののなかなか水が減らない。排水のタイミングは一度経験した人間でないとなかなかうまくいかない。「これでは時間内に終わらないぞ！」と大声を出しても一向に排水しようとしない担当職員。（一番若手の女性職員だ）「早く排水してくれませんか？」とせかしても何か言いたげで動こうとしない。すると周りにいた職員が校長からの指示であることを教えてくれた。どう見てもこの状況は早く排水しないと作業が進まない。

校長には私が早く排水するように言った、ということにしてやっと作業も進みだした。

毎年時間内に終わるらしいプール掃除が10分もオーバーした。

そして、いざ給水になると今度は水が出ているかどうか分からないほどの「チョロチョロ給水」なのである。これも校長の指示らしく予想通り3日経っても半分だけの状況だった。プール管理だけでなく他の業務も校長の指示通りに動いているようで、きっとストレスも溜まるだろうと思う。細かなことに気を使いすぎるというか口を出しすぎるというか、そんな校長に教頭さえ難儀しているという、ストレスを溜めているのは若手職員だけではなさそうだ。

1学期の終盤。相変わらずの忙しさ、それでも「ここを乗り切れば…。」と言う気持ちは43年前も今も同じ。まだまだ乗り切るエネルギーは残っていると思っていた。しかし今年の学期末は今までとは一味違うものとなった。

『KMEYO(カメヨ)』という人物が昭和の人間を悩ます。4月から赴任したK町の公務処理のシステムには未だについていけない。ICT機器の苦手な私にとっては「これさえなければ…。」といつも思うことである。文書作成で覚えた「一太郎」が使えなくなるから「Word」に変換しておくように指示されてもどうすればよいのか分からない。実は操作は簡単なようだが、今まで何の不自由もなくやっていたことをわざわざ変える必要がどこにある…？

そんなことに悩まされながら時間を費やした学期末だった。

## 原爆祈念集会（前頁の続き）

11時2分、原爆が投下された時刻だ。遠くから流れてきたサイレンの音が会場に響く、それに合わせて、一斉に頭を垂れて黙祷をささげた。

最後「原爆を許すまじ」（浅田石二作詞 木下航二作曲）を歌って集会を閉じた。来年はもっと多くの人や若い人の参加を期待したい。（樋園）

## 南九州を滅ぼすつもりか

主催 ストップ川内原発

■ **青木幸雄氏講演**

8月11日、原発20年延長、3号機増設問題についての特別講座が県民交流センターであり、オンラインで参加した。

「宮崎の自然と未来を守る会」の青木さんと言えば2017年11月に肝属支部で「核のゴミ最終処分問題」についてお話くださっている。

「92年に串間市に原発をという話が出た。農業の青年達が『子孫のために原発立地は絶対反対。命を育む農業と死の灰を生む原発とは共存できない。』と訴えて運動を展開して2012年白紙撤回になった。

21年前、日南市南郷町が中間貯蔵施設を誘致の話もあったが、永久貯蔵になるということで白紙撤回された。」

等々、青木さんは九電を相手に様々な市民運動を展開し、現在も進行中だそうだ。また、川内原発、県は違うけど足元の原発だよ、と訴えて取り組んでいる、という。

川内原発の構造上の問題点や活断層が近くにあるという問題など、いかに原発が危ないかを詳しく述べられた。

核のゴミの問題では、高速増殖炉もんじゅはダメになり、軽水炉サイクル（プルサーマル）も動かない。最終処分場も引き受けるところがない。

台湾は5月、最後の原発が停止した。青木さんは最後に「川内原発の運転延長と次世代革新炉建設は、安全神話に溺れ巨大事故リスクと行き場のない使用済み核燃料を積み重ねるだけ！地震・津波・噴火などの自然現象は止められないが、原発は決断さえすれば止められる」と訴えた。（樋園）

## ぶつくさ言うんとこれっつの独り言 39

**■身の程知らずにも見栄を張り**

３月初め頃だったか犬の散歩をしていると、同じく犬の散歩中のご婦人が「あのう、樋園先生じゃないですか？」と話しかけてきた。マスクをされていることもあるが、全く見覚えがない。「吾平小で一緒でした。全然変わっていらっしゃらない。」と言う。三十年以上前からすると目の下はたるみ髪は薄くなり腰痛でリハビリ中だ。変わってないこともないのだが、若く見られて、しかもご婦人から言われて途端に目尻が下がっただろうなと思った。マスクを外してもらったら、何となく見たような…。必死に記憶をたどった。…すると、

「旧姓は山口…です」とご自分の姓名を名まで言い終わらないうちに急に記憶が蘇って、「〇〇〇さん」と下の名前は殆ど同時の発声だった。後は二人で懐旧談だ。

６月、リハビリからの帰りちょっと見栄を張って自宅迄の1.2キロを歩くことにした。残り500mは、やや前傾姿勢で必死に歩いていた。家の近くで近所の人に「どげんかしたの」と聞かれて曖昧な返事を返したが、こんな姿はあのご婦人には見せたくないもんだ。（樋園）

## お悔やみ申し上げます

最近永眠された方のご芳名です。

大窪秋男様 6月23日 83歳

謹んでご冥福をお祈り致します。

## 野草折々-78-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

**ハナショウブ**
**（アヤメ科）**

比較的水はけのよい場所を好み
6月ごろ花を咲かせる

２０２２年６月（場所不詳）

## かごしま九条の会その１

■参院選後の改憲を巡る情勢

７月２７日、かごしま九条の会の総会・講演会がありオンラインで参加した。総会に先立って行われた講演の第１弾は、小栗実先生の講演だ。（小栗先生は、2016年11月30日のくろつち会学習会でお話しくださいました。）

| | | | |
|---|---|---|---|
| （立憲野党） | 立憲民主党 | 7,397456票 | （12.8%→12.5%） |
| | れいわ | 3,879,914票 | （4.4%→6.6%） |
| | 共産党 | 2,864,738票 | （6.8%→4.8%） |
| | 社民党 | 1,217,823票 | （2.4%→2.1%） |
| （改憲政党） | 自民党 | 12,808,306票 | （34.4%→21.6%） |
| | 国民民主党 | 7,620,492票 | （6.0%→12.9%） |
| | 参政党 | 7,425,053票 | （3.3%→12.5%） |
| | 公明党 | 5,210,569票 | （11.7%→8.8%） |
| | 維新の会 | 4,375,926票 | （14.8%→7.4%） |
| | 保守党 | 2,982,093票 | （0%→5.0%） 2議席 |
| | みらい | 1,517,890票 | （0%→2.6%） 1議席 |

左の表は比例代表得票数だ。

計算してみれば判る通り、みらいの立場は不明だが、立憲野党は26.4%→26.0 で改憲政党は70.2→68.2 となっている。勿論あくまで比例代表の得票数だが、自公を少数与党に追い込んだとは言え改憲阻止の立場で考えると、あまり喜ばしい結果ではない。

問題は参議院の憲法審査会がどうなるかということだ。改憲派は審査会で、具体的に憲法草案をまとめるということをねらっている。私達はそれに反対している。それで今は審査会は衆参両院とも具体的な議論に殆ど入っていない。

衆議院の方は与党が多数を取れなかったので、立憲民主党の枝野さんが審査会の会長になっている。では、参議院の方はどうなるか。審査会は全体で45人いて、今までは自公27人で審査会会長は与党から出ていたが、今回は少数与党になったので立憲から出るだろうと思うが、幹事の数は改憲勢力が多数になってくると思う。（注：8月1日、会長に立憲の長浜博行氏が選出された）

参政党はYoutubeでスパイ防止法を作ろうと訴えている。しかし私達の９条は大切だという訴えは若者には入っていないというのが率直な感想だ。

アンケートから見ると９条を守ろうという支持が多いのは７０代だ。９条の大切さを有権者、特に若者にどうやって伝えていくかというのが一つの課題だ。

名簿提出に同意した高校生に自衛隊募集の手紙が行くようになっているが、若者に「自衛隊をどう考えるか」と問うのも一つの方法だろうが、みんなで考えていきたい。

（雑駁なまとめ方で御免…樋園）

## かごしま九条の会その２

■鹿児島の軍事基地化

第２弾は、平井一臣先生のお話で、九条の会おおすみで2022年6月に講演してくださった先生です。以下お話の要旨です。

参院選について「一言で言うと非常にショック。日本社会の底が抜けたのかなという印象を受けた。21世紀に入っての政治の特徴が、政治家とか政党が市民社会の一部を切り取ってそこを攻撃するというやり方が強くなってきている。阿久根事案もそうで、今回は外国人。これ日本だけじゃない。以前は政党批判とか団体批判だったが、今は反論できないぼわっとした市民社会を批判している。そういう議論に行かないようにする必要があるのかなということを感じます。

鹿児島の軍事基地化について、急ピッチで軍事基地化が進んでいてこの流れは止まらないと思いますが、何が危惧されるか、3つあります。

1 加速化と累積的拡大

2 既成事実化と「あきらめ」の広がり

3 異論や批判に対する抑圧的「空気」の広がり

4・5年前まではこんなに急ピッチで進むとは思われなかったのだが、安倍内閣で枠組み、岸田内閣で防衛費増大という２つができて、どんどん加速化している。その既成事実化が進んであきらめが広がるということが危惧されます。またそれおかしいじゃないか、ちょっと待てという意見に対する社会的抑圧、しめつけの空気が広がるのを危惧します。

事例として

さつま町弾薬庫問題／海上自衛隊大島地区古仁屋港施設整備問題／陸上自衛隊奄美駐屯地・瀬戸内分屯地問題／南西地域における運用基盤に係る事前調査の問題／鹿屋航空基地に新たな火薬庫の整備の問題、無人機の活用の問題／馬毛島の問題等々

奄美の場合、多角的に今後進んでいくと言うことが判る。最近の傾向は防衛省がかなり強引に推し進めている、力で押し切ればなんとかなるという傾向がある。

鹿児島県全域が軍事基地化の波にどんどん変化している。

その背景が３つある。

1 脅威論の喚起

2 日米軍事協力の再編強化

3 世界的な相互不信の高まりと閉鎖的・排外的なナショナリズム

それらをうまく利用しながら、時には強引に進めている。

根本的な問いかけは、どこまでやれば安全なのか、到達点がないんです。もう一つは仮に戦争が起こった場合、一般市民への対応はどうなるか。避難の問題があるけど、補償の問題もある。軍人は補償があるけど一般市民はない。仮に戦争があった場合は一般市民は最後は捨てられる、一方的に犠牲だけが強いられる。

この進行に簡単にはブレーキはかけられないけど、裁判や色んな形でブレーキを掛ける努力は必要だし、それがもっている意味というのを共有する必要がある。（樋園）

## かごしま九条の会その３

■住民訴訟と馬毛島の現状

第３弾は住民訴訟弁護団の村山耕二郎先生が馬毛島の現状について話された。以下その要旨です。

・国が馬毛島全体の軍事基地化を目指して2023年1月12日から着工

・市長が2022年に行った売買契約が違法・無効として西之表市住民30名が2023年12月18日に提訴、その争点は

適正な価格だったのか

随意契約が適法だったか

普通は競争入札だけど、今回は国を売買契約の相手と指名しているのが適法だったのか。随意契約というのはかなり例外的な場合でないと認められないというのが地方自治法によって定められている。

馬毛島はトビウオの好漁場で、1951年に99戸が入植したが定住に成功せず、80年に再び無人島になった。野生のマゲシカが生息する。

（下写真）今年の6月2日の航空写真です。着工直後（23年1月）と比べ、かなり着々と工事が進められていて、緑がなくなりマゲシカがどれだけ生息しているか心配される。基地の完成は当初予定より3年遅れて2030年3月とされている。

・2025年7月　完成前に自衛隊の先遣隊が種子島勤務を開始（既成事実化が進む）

・台湾有事の名の下に南西諸島を戦略的要塞化、2017年の新安保法制が後押し

・馬毛島は米空母艦載機の訓練施設だけでなく海自や空自の拠点

・もともと馬毛島はタストン社が99．6%を所有、・市場価格45億円の島を160億円で売却、個人の所有者は12名で今回の訴訟の原告には不参加

2024年8月、塩田知事は特定利用空港・海湾（有事に自衛隊等の利用を想定）に西之表港を含む県内8カ所の指定受け入れを表明

有事の際、米軍がミサイル部隊を南西諸島とフィリピンに軍事拠点を設ける方針（2024年11月25日報道）

馬毛島の軍事基地化が進めば23年11.29の時の様なオスプレイ事故が起こる蓋然性が高くなる

随意契約について市のガイドラインでは見積書の作成を義務づけているし、公表を義務づけているが公表していないなど違法であることが明らかになった。

最高裁判例では、例外規定として、相手方（この場合、国）が西之表市の契約規則をガイドラインを知っていたら無効になるが、国が知らなかったはずはない。（端折り過ぎを深謝）

## 命の谺-川端康成と特攻

■作家 多胡吉郎（たごきちろう）講演会

8月3日、鹿屋市生涯学習課計画のイベント「戦後80年記念講演」があった。作家多胡吉郎（たごきちろう）は「命の谺（こだま）-川端康成と特攻」で2022年和辻哲郎文化賞を受賞している。僕は川端康成が鹿屋基地に来ていたことは知っていたが、実態については全く知らなかったので興味がわいてきた。

多胡さんは鹿屋市敬愛園の同人誌「火山地帯」に関わりを持っていて川端が特攻基地にいたことを知ったそうだ。（以下、他の資料を交えながら講演を紹介）

「特攻というと右か左に振れがちですが私は視点を変えて…」と多胡は語り出した。

出撃があるたびに何十人という若者が亡くなっていく。川端は海軍報道班員として作家の山岡荘八、新田潤らと1945年4月24日に鹿屋基地に降り立っている。川端は5月24日に鎌倉に帰るまでのひと月を、ここ鹿屋で過ごし、死に飛び立っていく若者を見送ることになる。戦後川端は「敗戦の頃」に「…日本の敗戦も見えるようで私は憂鬱で（鎌倉に）帰った。特攻隊についても、一行も報道は書かなかった」と書いている。

川端は1942年から毎年12月8日に、戦死者の遺文集を読んでの感想を東京新聞に書いている。その中でも川端は戦意高揚や戦争賛美の文は書いていない。逝った者と遺された者との間に谺しあう情愛の絆を読者にも伝えようとしている。

例えば「…（前略）肉親の戦死を、日本人ほど悲しまぬ民族はないが、また日本人ほど悲しむ民族もなかろう」とか「（特攻出撃前）瞼の底に浮ぶ内地とは…父母らの面影であり、家郷の山河であり、そうしてまた銃後の人情風俗、日本の心である」と書いていて、そこには戦争賛美はない。無論当時の統制下、軍部批判はできない。

戦後川端は元特攻隊員から「特攻を描いた作品がない」と批判されたが「生命の樹」とか「虹いくたび」という作品に特攻隊が出てくる。前者では啓子、後者では百子という散った特攻隊員を愛した人物の心の変容、生き方を描いていて、特攻場面そのものは描いていない。

川端は遺文集で見る戦死者達や鹿屋で会った特攻兵達に、日本人の心や、命を見ている。

多胡は最後「鹿屋に川端文学碑を建てて頂きたい。なぜかというと、鹿屋の900数名が数ヶ月の内に死んだ。正に死の生産工場のような歴史を辿ってしまった、鹿屋の負の歴史、死の累積、死の堆積、死，死，死，death，death，death。それを川端さんを通すことによって、命の次元に転化させ、特攻作戦を美化するのではなく、特攻隊一人一人にかけがえのない人生があって、色んな思いを抱きながら散っていった、私達はその思いを忘れちゃいかん、ということです」と語った。樋園が思うに、碑の建立はいいが、碑が戦争賛美に利用されるのだけはご免だ。